

平成28年熊本地震における県立広島病院の活動

## ～第2報～

# 医療救護班・JMAT

岡本 健志<sup>1)</sup> 山田 博康<sup>2)</sup> 笹山亜弥子<sup>3)</sup>  
永井 佳織<sup>3)</sup> 笠原 庸子<sup>4)</sup> 上田 貢<sup>5)</sup>

## 第1部 広島県医療救護班の活動 (DMATの帰還後、求められるもの)

活動体系：広島県救護班 第1班

活動期間：2016年4月21日～4月27日

構成員：岡本健志医師, 笹山亜弥子看護師, 永井佳織看護師, 笠原庸子薬剤師, 上田貢事務員

### A. はじめに

平成28年4月14日, 午後9時26分に発生した震度7の前震(M6.5), そして4月16日午前1時25分に発生した震度7の本震(M7.3)を中心とし, 未曾有の大震災が熊本県を襲った。地震発生直後から, 多くのDMAT隊が現地に結集し, 超急性期の災害支援を展開した。然し, 任務を終了したDMAT隊は徐々に帰還(医療支援は減少)する為, 4月19日, 蒲島郁夫熊本県知事より全国知事会会長に対して救護班の派遣要請が出された。20日, 当院内で急遽救護班を招集し, 21日, 熊本県にむけて出動した。知事からの要請にいち早く対応し, 到着した県救護班は広島県, 山口県, 兵庫県, 徳島県, 静岡県, 沖縄県のみであった。

### B. 災害支援活動

4月21日(出発):

交通機関は各地で寸断されていた。レンタカーに支援物資を可能な限り積載し, もの凄い大雨の中, 片道7

時間30分かけて熊本県庁内の熊本県医療救護班調整本部に到着した。被害の大きい阿蘇市を中心に活動することになった。

4月22日(西原村):

阿蘇医療センター(阿蘇地区災害保健医療復興会議; 以下ADRO)で, 情報会議後, 阿蘇保健所でミーティングし, 西原村各避難所の状況把握活動を開始した。西原村役場前には日赤の救護所が既に作られており, 一定の情報収集がされていたが, 熊本日赤本部のみに報告されており, 県が全く情報を共有できていない事実が判明した。

4月23日(南阿蘇村):

感染性胃腸炎の集団発生が起こった避難所の状況把握活動を行った(写真1)。中学校体育館は土足厳禁になっておらず, 感染対策での遅れが集団発生を招いた。道路は地割れが激しく, 東海大学体育館訪問は,



写真1 4月23日 感染性胃腸炎の集団発生があった避難所の訪問

- 1) 県立広島病院 総合診療科部長
- 2) 県立広島病院 消化器内科主任部長  
(広島県医師会災害担当理事)
- 3) 県立広島病院 看護部
- 4) 県立広島病院 薬剤科
- 5) 県立広島病院 事務局

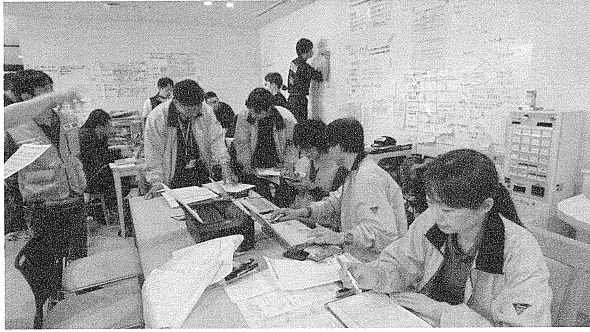


写真2 4月26日 ADRO本部での医療救護班の業務調整活動

通行上、命の危険を強く感じて断念した。

4月24日 (大阿蘇病院) :

午後6時から翌朝9時までの老人病院での長時間看護支援、救急当直、避難者相談など任務は多岐にわたり、疲労の限界だった。地震時、即座に逃げられるよう電気をつけ、窓を全開にしたままの避難所が非常に印象的だった。

4月25日 (ADRO本部) :

徹夜で疲弊しきった朝、本部から医療救護班の業務振り分け調整役の依頼があった。『すべては被災者のために』と念じ、そのまま午後本部に戻り、業務引き継

ぎしてから、夜遅くホテルに帰還した。

4月26日 (本部調整役) (写真2) :

刻々と収集される避難所の状況を電子媒体化し、クレームを受け、集合する医療救護班を的確に配置する。これは非常に激務であった。北海道の総合病院の院長先生が、『本部の掃除も支援ですよ。』と笑顔で答えてくれたことが心の支えだった。

4月27日 (帰還) :

熊本市内で城壁の崩れた熊本城を目の当たりにした。復興には数年かかることが予測されるが、今後も自分達が出来る支援を継続することを誓い、全行程1873.6 kmの移動を終え、広島に戻った。

### C. おわりに

災害支援医療で最も求められることは、地域のニーズに応じて、自らを柔軟にすること。そして、一時的に自らだけが活躍しよう (勝手に、自己の活動イメージを抱く医療者はむしろ現場を混乱させる) とするのではなく、地域生活の復興を影で支えることが求められる。その過酷さを実体験し、活動を完遂した当院の救護班メンバーに心から感謝する。

## 第2部 JMAT先遣隊活動報告

### (熊本県医師会・熊本県災害対策本部・阿蘇地域への医療支援)

#### A. はじめに

JMAT (Japan Medical Association Team) は平成22年3月に日本医師会「救急災害医療対策委員会」報告書にてJMATAの創設が提言され、その提言を受けて日本医師会がJMATAの実現に向けて調整中であった平成23年3月に東日本大震災が発生し、これに対応するため日本で初めてJMATAが運用された。JMATAの主な活動は、被災者に対する医療、健康管理、避難所等の公衆衛生対策や医療支援であり、発災直後より活躍するDMATAに引継ぎ、被災地医療の回復までを担当する。JMATA派遣システムは被災県医師会が、日本医師会に医療支援要請をすることから始まり、日本医師会は内閣府、厚生労働省に報告した上で、各県医師会にJMATAの派遣要請をおこない、各県医師会がJMATAを派遣することになる。

#### B. 熊本地震における経緯と 広島県JMATA先遣隊活動

今回の熊本地震では、前震後の4月15日には熊本県医師会、日本医師会の協議後、熊本県医師会に県内のJMATA派遣要請が行われ、本震直後の4月17日にJMATA派遣は熊本県から全国に拡大が決定された。広島県医師会では日本医師会からのJMATA派遣要請 (約1月間、常時1チームの連続派遣の要望) を受け、広く県内の市郡医師会、病院長に医師、看護師、薬剤師、事務員の派遣協力をお願いした。計画立案を行っていた4月20日に、日本医師会より、知事要請の各県医療班派遣の決定を優先し、JMATA派遣は一時待機へとの変更指示があり、同時に広島県行政より、知事要請の医療救護班派遣への協力要請もあったため広島県JMATAは待機に変更した。しかし、4月24日に新たに派遣要請を受け、4月30日より5月30日の

表 先遣隊メンバー

広島県医師会 常任理事	山田 博康
広島県医師会 常任理事	野間 純
広島県医師会 常任理事	温泉川 梅代
広島県医師会 事務局長	荒木 敏明
広島県医師会 地域医療課長	山田 直樹
広島県医師会 地域医療課	善倉 一彦

間、10チームの派遣を計画し、4月30日から第1陣の広島県JMATとして先遣隊と第1班（広島共立病院チーム）を熊本県阿蘇地域に派遣した（表）。なお先遣隊として、熊本県医師会・熊本県災害対策本部・阿蘇医療センターに伺い、実際の状況を調査するとともに、今後の対応方針について相談を行ったので、概要を報告する（以下は広島県医師会速報平成28年5月25日号より抜粋）

4月30日（土）

4月30日午前、広島JMAT先遣隊ならびに第1班は熊本行の新幹線に乗り込んだ。一時期は運転見合わせとなっていた九州新幹線も、4月30日には全線開通しており、本数もかなり増えていた。出発時には、これまで熊本県への医療支援にあたり県全体の対応として各種の情報共有・調整などご協力をいただいた広島県医務課からお見送りをいただいた。

熊本駅に到着後、先遣隊と第1班とで今後の動きについて打合せを行った後、先遣隊は熊本県災害対策本部と熊本県医師会に伺い、挨拶と情報収集を行った。熊本県災害対策本部では、広島JMATのチーム登録を行った他、熊本県内の医療救護活動に係る指揮系統や避難所の稼働状況、阿蘇地域までの交通ルートなど情報提供をいただいた。

熊本県医師会では、八木副会長ならびに西岡事務局長からお話を伺うことができ、発災から現在に至るまでの熊本県医師会の対応状況や県医師会として把握している各地域の医療状況について情報提供をいただいた。また、偶然にもわれわれと同時に熊本県医師会を訪れていた厚生労働省医政局地域医療計画課の迫井課長（元広島県健康福祉局長）にもお会いすることができ、情報交換を行った。

熊本県災害対策本部、熊本県医師会への訪問後、先遣隊は第1班と合流し、阿蘇地域における拠点となる

阿蘇医療センターに向かった。主要なルートである国道57号線は阿蘇山ふもと付近が一部通行止めであったが、迂回路が機能していたため大きなトラブルなく到達することができた。阿蘇医療センターに到着後、改めて医療救護班の受付手続きを行い、調整係担当の奥山先生から阿蘇地域の医療状況について説明を受けた。

阿蘇地域は、災害拠点病院となる阿蘇医療センターが免震構造であったことから発災当初より稼働できており、4月30日時点では開業医の診療も全て再開していた他、避難勧告の解除により避難者が自宅に戻れるなど避難所ならびに関連する医療ニーズも減少して通常診療体制に移行しつつあるとのことであった。また、ここ4日ほどは避難所における医療行為は行われず、医療支援についても、JMAT以外に全国知事会の要請に伴う都道府県からの医療支援班や日赤チーム、各職能団体からの支援などが入っており、避難所医療や地域医療機関の当直・夜勤交代などのニーズも満たされていること、避難者へのニーズ聞き取りなどは様々な支援チームがそれぞれ行うことで何度も答えることとなる避難者には逆に聞き取り行為がストレスになってしまうケースも出始めていることなどが説明され、ミーティング終了後、広島県医師会として今後どのように対応すべきか検討しつつ初日の活動を終えた。

5月1日（日）

阿蘇地域の医療支援は、毎朝7時30分から阿蘇医療センターで行われるミーティング（写真3）でその日ごとの各支援チームが行うべきミッションが割り振られる。広島JMAT先遣隊及び第1班も朝のミーティ



写真3 熊本阿蘇医療センター“ADRO”でのミーティング

ングに参加したが、医療ニーズとその充足状況は良好であり、広島JMATは当初待機することとなった。このことを受け、今回の災害において広島県医師会として継続的にJMATを派遣することが被災者や被災地の医療コーディネーターへの支援に必ずしもつながらないばかりか、逆に迷惑をかけてしまう可能性があることを踏まえ、広島県医師会としては日本医師会ならびに熊本県医師会と相談の上、会長・副会長とも協議し、今後特段の被害拡大などの状況変化がなければ、広島県から熊本県へのJMAT派遣を見送ることを決定し、関係各所に連絡を行った。

その後、第1班ならびに広島県から派遣された県知事要請医療救護班（安佐市民病院チーム）に阿蘇郡西原村における車中泊避難者の位置情報把握のための調査依頼があったことから、広島チームは西原村に移動し調査業務に入った。先遣隊は阿蘇医療センターで得た情報と広島県医師会としての今後の方針を熊本県医師会に報告するため、広島チームとともに西原村に入った後、西原村ならびに益城町の被害状況を確認しつつ熊本市内に移動した。

熊本県医師会で阿蘇地域の医療状況がかなり安定してきていることと、その状況を踏まえて広島県医師会として今後のJMAT派遣を見送る旨を報告したところ、熊本県医師会としても距離が離れた阿蘇地域の情

報は得にくい状態であったことから、情報提供への感謝と、同日のうちに災害担当理事と事務局とで阿蘇医療センターを訪れ相談を行う予定であることを伺った。

先遣隊も第1班とともに再度阿蘇医療センターに戻り、阿蘇医療センター内でADROの夕方のミーティングに参加した。ミーティングではその日の各地域・各団体の活動報告に加え、熊本県医師会災害担当理事である西先生も出席され、熊本県内の医療支援状況について情報共有が行われた。ミーティング終了後、広島チームは改めて西先生ならびに阿蘇医療センターの甲斐院長に今後の動きについてご報告をさせていただいた。

5月2日（月）

広島県医師会として今後のJMAT派遣を見合わせることを決定したことを踏まえ、先遣隊最終日は再度阿蘇医療センター周辺の被害状況を確認した後、熊本駅に向かい新幹線にて帰広した。広島到着後、広島県医師会館にて広島県の知事要請医療救護班の調整を担当している広島県医療・がん対策部長の金光氏と医務課長の福永氏に面会し、熊本県で得た各地域の医療支援状況や広島県医師会として今後の派遣を見合わせることを報告し、先遣隊としての活動を終えた。